



# Artists in ASHIMORI

通り土間のある 16mのギャラリー

## 01. 足守の魅力と課題

### 足守の魅力

- ①昔ながらの歴史的町並み
- ②河原や田園などの豊富な自然
- ③岡山市街地からの自動車でのアクセス
- ▶ 手に入りやすい非日常感

### 足守の課題

- ①観光客数の低迷
- ②倉敷などに対する知名度の低さ
- ③公共交通機関の少なさ
- ▶ 足守に足を運ぶ人が少ない

足守の持つ、手に入りやすい**非日常感**を活かし

足守を訪れる人を増やしたい

▷ 非日常では普段と異なる感性や創造力が刺激される  
= アートの場として最適

▷ **アート**を使って人を呼び込めないだろうか？

## 02. Artists in Residence ASHIMORI

私たちは、Artist in Residence というアーティストをリノベーションした建築に呼び込む手法に着目し、それを足守という町全体で応用しようと考えた。

**Artist in Residence** : アーティストが一定期間ある住宅に滞在し、普段とは異なる環境下で創作活動、展示活動、リサーチ活動などを行うこと。  
アーティスト・イン・レジデンス 地域振興、リノベーションなどの場でしばしば用いられる。

### Artist in Residence



居住、創作、展示等の活動を  
1つの建物内で行う

### Artists in ASHIMORI



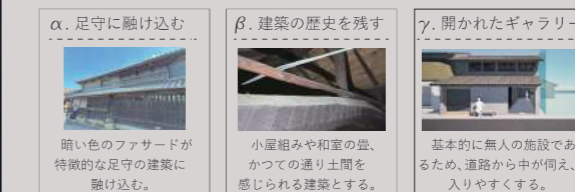
あしもり遊学舎が手掛けたゲストハウスやレストラン、足守の持つ豊富な自然とタッグを組み、現在足守にないアートの創作・展示の場としてのギャラリーを建築することで、まち全体を巻き込む **Artists in ASHIMORI** へ

### [プロジェクトスキーム]

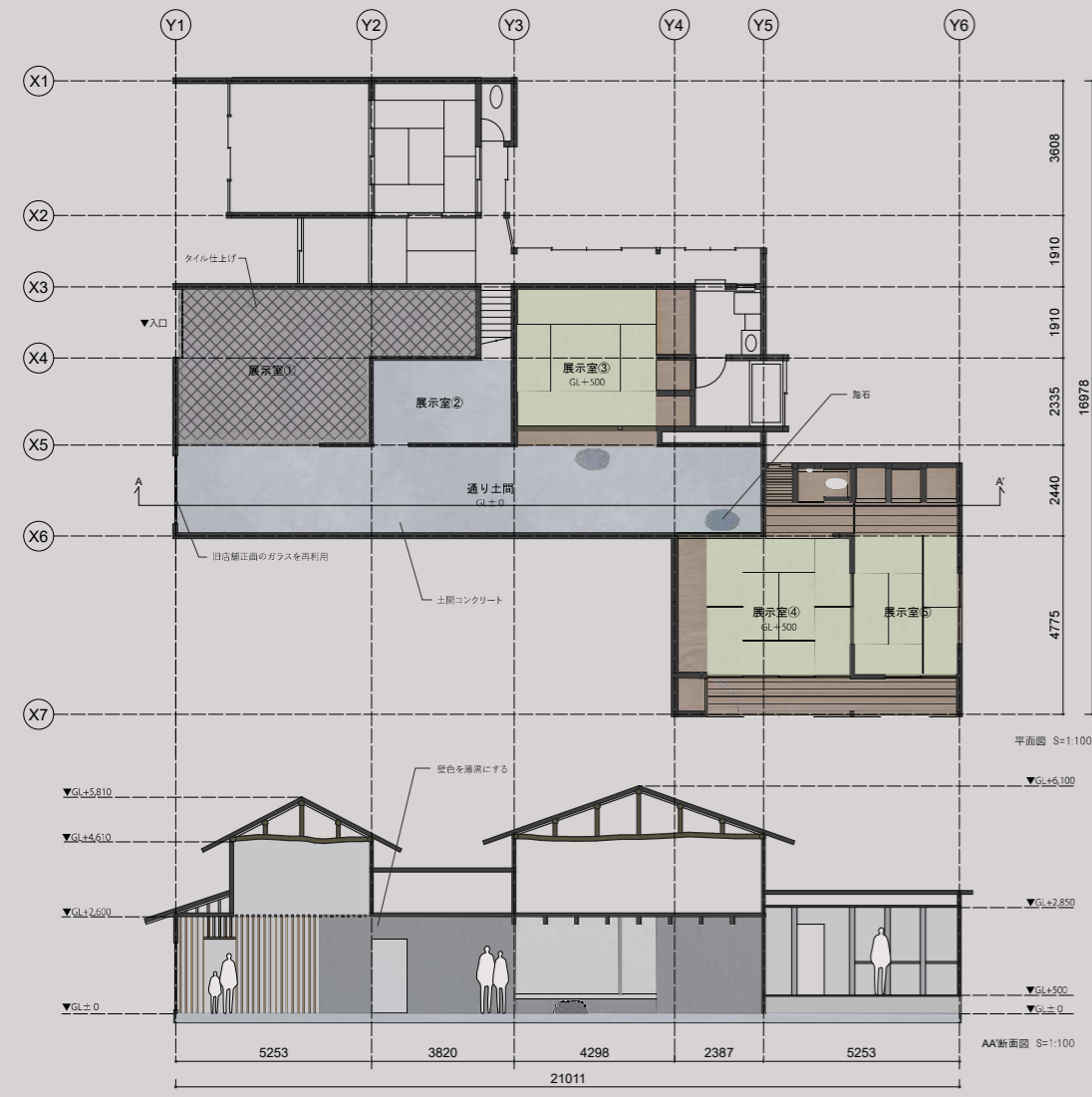
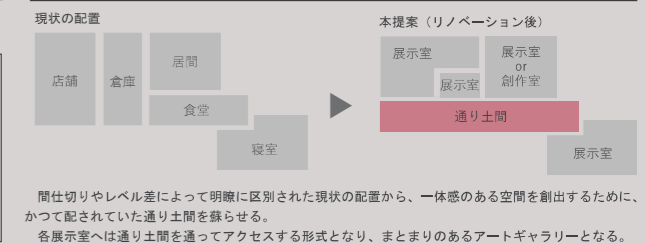


## 03. 設計コンセプト

「足守に融け込み、建築の歴史を残す開かれたギャラリー」



## 04. ダイアグラム



## 05. 各室の役割及び特徴

I. 展示室① (旧店舗部分のホール)

入り口側に展示室①として大きな空間を設計した。展示スペースとしてはもちろん、ワークショップや受付等、様々な活動に利用でき、それを道路から観られることにより入りやすい雰囲気を出している。

II. 通り土間 (旧台所の展示スペース and 通路部)

かつての通り土間を蘇らせた展示室兼移動スペース。幅員をやや狭くし、道路側から16mの長さの通路を設けることで通り土間を強調した。床素材は、唯一コンクリートを使用し、他室との差別化を図る。

III. 展示室② (旧バックヤード部の小面積展示スペース)

旧バックヤード部には最小面積の展示室を設ける。他の展示室とは一線を画した別世界観を演出したり、他の用途に活用したりできる。

IV. 展示室③ (旧居間の展示室 or 創作室)

かつて居間だった部分には畳などをそのまま残した展示室を設ける。通り土間からは約500mmレベルが上がっており、踏石を介して両者を繋ぐことで両者を独立させつつ、緩やかにつながることができる。

V. 展示室④⑤ (旧寝室部分の展示室 or 創作室)

旧寝室も展示室③と同様に畳などを残し、かつての趣を感じられる空間とした。縁側からは庭を眺めることもでき、本ギャラリーで唯一緑を感じることができ、独特の雰囲気を出す。展示室③④⑤の和室は、アーティストの意思で展示室にも創作室にも活用でき、空間利用の自由度を確保する。

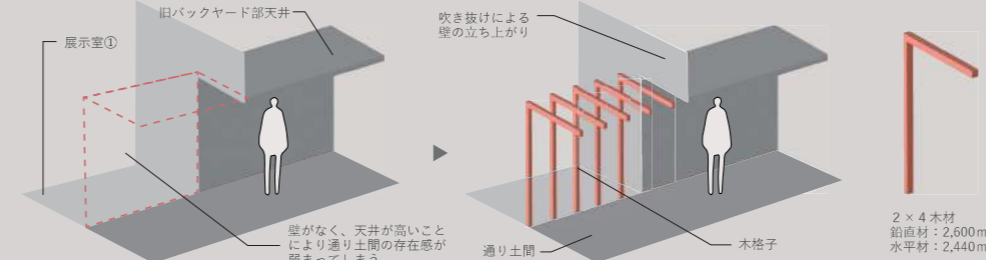
道側側面ファサード

厨子二階を持つ足守の町家に近いファサードとし、全体的に落ち着いた配色にすることで、町に融け込むよう設計した。また、店舗部正面のガラスを再利用して大きな開口をつくり、開かれた空間を演出する。

旧店舗部分 2階 小屋組み

旧店舗部の天井と取り払い、展示室①を吹き抜けの大空間とする。これにより天井の高い明るい雰囲気を出すと同時に、梁などの小屋組みを現しとして見せることで建築の歴史を感じられる空間とする。

## 07. 木格子による通り土間の強調



## 08. 施工時の工夫

a. 部材の再利用

店舗部分の2階床板を外した廃材や店舗正面に使用されている大きなガラス板を再利用し、間仕切りやファサードに活用する

b. 自分たちの手で施工する

自分たちで施工できる部分は極力自分たちの手で行うことで、思い描いた設計を形づくることのできるうちに、経費も大幅に削減することができる。

環境への配慮や経費の削減、施工の自由度を高める